

令和6年度 第1回コンソーシアム連携協議会の記録（抜粋）

協議1 特別番組・啓発CMについて(内容や取り上げる人物など)

- 障がいのある方が番組に登場するだけでなく、企画に関わってもらえるのはどうか。
- 子供や高校生、大学生の関わりも加えたらどうか。
- 当事者やボランティアのインタビューを加えてみてはどうか。
- 文字テロップなど情報保障は、昨年度よりも進化した形でわかりやすく制作してほしい。
- 旭化成アビリティで働いている方を取り上げるのはどうか。
- 日常的に生涯学習を学んでいる方で、生活の一部としている様子取材してはどうか。
- 障がい者スポーツに取り組んでいる選手を取り上げてみてはどうか。

協議2 各地区の取り組みについて

- 県立看護大としては、学生を企画委員に加える予定。企画段階から、当事者の意見を加えるために、調査などを行い、話し合うことが重要。
- 青島青少年自然の家は、宮崎市聴覚障害者協会と共同して、イベントにブースを設ける予定。手話を通じた交流を図る。
- 都城市は、高城地区で防災体験教室を実施する計画である。勉強会と体験会。特別支援学校の児童生徒にも参加を呼びかけるなど、幅広い参加者を想定し、地域のボランティアネットワークなどと連携して取り組む。
- 小林市は、委託によらずに、講座を試験的に実施する予定。
- 日向市は、今年から再委託事業を実施する。参加者の集め方や講座タイトルのアイデアが欲しい。
- 延岡市では、3回の講座を予定している。第2回は、昨年と同じ、勤労感謝の日に実施する。コンソーシアム委員も、できる限り企画や運営などに加わって欲しい。